



## 平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月1日

上場会社名 スギホールディングス株式会社  
 コード番号 7649 URL <http://www.drug-sugi.co.jp/hd>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 榎田 直  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 笠井 真  
 四半期報告書提出予定日 平成25年10月11日 配当支払開始予定日 平成25年11月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

上場取引所 東 名

TEL 0566-73-6300

平成25年11月5日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年2月期第2四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	184,432	6.3	11,552	14.4	12,680	6.1	7,427	10.5
25年2月期第2四半期	173,481	5.7	10,101	△0.8	11,948	11.3	6,724	△9.2

(注) 包括利益 26年2月期第2四半期 7,434百万円 (10.6%) 25年2月期第2四半期 6,724百万円 (△8.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第2四半期	117.30	—
25年2月期第2四半期	106.20	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期第2四半期	180,352	110,430	61.2	1,744.12
25年2月期	164,783	103,948	63.1	1,641.72

(参考) 自己資本 26年2月期第2四半期 110,430百万円 25年2月期 103,948百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	12.00	—	15.00	27.00
26年2月期	—	16.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	16.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	366,000	6.5	19,000	3.1	21,100	△7.0	11,300	△10.5	178.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) 株式会社ジャパン  
(注)詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年2月期2Q	63,330,838 株	25年2月期	63,330,838 株
② 期末自己株式数	26年2月期2Q	14,837 株	25年2月期	14,275 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年2月期2Q	63,316,204 株	25年2月期2Q	63,317,068 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(6) セグメント情報等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、現政権による各種デフレ脱却及び経済成長施策を背景に、円安による輸出環境の改善や株価上昇もあり、景況感は緩やかな改善を見せております。

しかし、個人消費は、消費マインドの好転により、高額品消費を中心に持ち直しの動きが見られるものの、長引くデフレ経済の中、雇用環境の不安や所得の伸び悩みもあり、消費者の節約意識は依然として強く、生活関連消費の基調は依然として低い状況で推移しております。

ドラッグストア業界においては、「異業種・異業態間の同質化競争」、とりわけ“価格競争”が日ごとに厳しくなっており、業界を取り巻く競争環境は従来とは全く様相が異なっております。

業界各社は、薬のネット販売やシニアマーケットの拡大、来春予定の消費税増税などによる市場・競争環境の変化動向を見据えて、「差別化」、また、「ローコスト化」への取り組みを強めており、「既存店舗の改築・改装」、「新たな商品分野やサービスの導入拡大」、そして、「更なる成長のための新たな業態開発」などに取り組んで来ております。

当社におきましては、株式会社スギ薬局と株式会社ジャパンの経営統合により、今後の市場・競争環境に対応すべく、株式会社スギ薬局と株式会社ジャパンの業態ポジション、そして、店舗ポートフォリオを整備・再設定するとともに、その進化と展開に向けた店舗開発、そして、組織構造や仕組み、オペレーションの見直しを行い、経営のローコスト化を推進してまいりました。

また、個々の店舗がお客様や競争環境に俊敏かつきめ細かな対応ができるよう、地域別の分権化組織に移行するとともに、部門別管理会計システム導入による各部門における業務と数値の評価・責任コントロール体制の整備・構築、更に、分権化組織運営を通じて次世代を担う経営者人材育成に注力してまいりました。

出退店の状況は、31店舗を新規出店するとともに、12店舗の閉店を行い、当第2四半期末におけるグループ店舗数は 890店舗（前期末比 19店舗増）となりました。

以上の結果、売上高は 1,844億32百万円（前年同期比 6.3%増、109億51百万円増）、営業利益は 115億52百万円（同 14.4%増、14億51百万円増）、経常利益は 126億80百万円（同 6.1%増、7億32百万円増）、四半期純利益は 74億27百万円（同 10.5%増、7億2百万円増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①ファーマシー事業

ファーマシー事業は、調剤併設型ドラッグストアとして、医療機関の誘致や在宅医療における施設連携の強化を実施するとともに、お客様・患者様視点から調剤室の改装及び調剤待ち合い環境の改善に取り組んでまいりました。

また、地域の中核となる「美と健康と生活の総合的なサポート」をコンセプトとした新業態店の開発を行うとともに、薬剤師による第1類医薬品やヘルスケア商品、ビューティアドバイザーによる化粧品のカウンセリング販売にも注力してまいりました。

更に、商販一体の体制によるお客様視点からの品揃え・売場づくりに取り組むとともに、店舗業務の基本の徹底、売価管理・売場管理のレベルアップを行うことで収益性改善とローコスト化を推進してまいりました。

出退店の状況は、31店舗を新規出店、11店舗閉店を実施するとともに、既存店強化策として52店舗の改装と4店舗のドラッグ事業への転換を行い、当第2四半期末店舗数は 734店舗（前期末比 16店舗増）となりました。

以上の結果、売上高は 1,455億93百万円（前年同期比 7.7%増、103億81百万円増）、売上総利益は 432億68百万円（同 11.2%増、43億49百万円増）、販売費及び一般管理費は 327億68百万円（同 8.9%増、26億72百万円増）、営業利益は 104億99百万円（同 19.0%増、16億76百万円増）となりました。

#### ②ドラッグ事業

ドラッグ事業は、「“安さ感”の演出」、「選びやすさ・買いやすさの改善」、「更なるローコストオペレーション」を追求した新業態店の開発、そして、ヘルスケア商品の拡大やホームケア商品、食品の強化及びPB商品の販売拡大を実施するとともに、ローコスト運営にも取り組んでまいりました。

出退店の状況は、1店舗の閉店を実施するとともに、既存店強化策として8店舗の改装を実施し、商勢圏シェア向上を目的にファーマシー事業から4店舗の転換を行い、当第2四半期末店舗数は 156店舗（前期末比 3店舗増）となりました。

以上の結果、売上高は 388億39百万円（前年同期比 1.5%増、5億68百万円増）、売上総利益は 80億16百万円（同 0.3%増、20百万円増）、販売費及び一般管理費は 64億12百万円（同 5.4%増、3億27百万円増）、営業利益は 16億4百万円（同 16.1%減、3億7百万円減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

総資産は、現金及び預金、売掛金の増加及び有価証券の増加等により、1,803億52百万円（前連結会計年度末に比べて155億68百万円増加）となりました。負債は、買掛金の増加等により、699億21百万円（同90億86百万円増加）となりました。純資産は、利益剰余金の増加等により、1,104億30百万円（同64億82百万円増加）となり、自己資本比率は61.2%（前連結会計年度末比1.9%減）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年4月9日に公表いたしました連結業績予想の修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

特定子会社である株式会社ジャパンは、当社を吸収合併存続会社、株式会社ジャパンを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行ったことにより、平成25年3月1日付で連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(追加情報)

賞与支給対象期間の改定

当社グループは、賞与支給対象期間（夏季賞与は3月1日から8月31日を1月1日から6月30日に、冬季賞与は9月1日から2月末日を7月1日から12月31日に）の改定をいたしました。

なお、移行措置として、平成25年夏季賞与の支給対象期間を平成25年3月1日から平成25年6月30日までとして支給しております。

この支給対象期間の変更により、営業利益、経常利益及び四半期純利益が、それぞれ743百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	41,627	46,548
売掛金	9,089	11,022
有価証券	12,693	18,358
商品	39,611	40,150
その他	7,383	8,533
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	110,403	124,613
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	21,024	21,846
その他(純額)	10,847	11,124
有形固定資産合計	31,871	32,970
無形固定資産		
投資その他の資産	2,204	2,323
差入保証金	14,870	15,100
その他	6,097	5,384
貸倒引当金	△665	△40
投資その他の資産合計	20,303	20,444
固定資産合計	54,379	55,739
資産合計	164,783	180,352

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	36,510	42,335
未払法人税等	2,947	3,512
賞与引当金	373	975
その他	13,770	15,614
流動負債合計	53,601	62,437
固定負債		
退職給付引当金	2,665	2,815
資産除去債務	2,827	2,891
その他	1,741	1,776
固定負債合計	7,234	7,484
負債合計	60,835	69,921
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	15,434	15,434
資本剰余金	24,632	24,632
利益剰余金	63,891	70,368
自己株式	△35	△37
株主資本合計	103,922	110,397
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25	32
その他の包括利益累計額合計	25	32
純資産合計	103,948	110,430
負債純資産合計	164,783	180,352

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	173,481	184,432
売上原価	126,566	133,148
売上総利益	46,915	51,284
販売費及び一般管理費	36,813	39,732
営業利益	10,101	11,552
営業外収益		
有価証券評価益	848	665
受取賃貸料	605	597
受取手数料	399	—
その他	562	538
営業外収益合計	2,415	1,802
営業外費用		
賃貸収入原価	497	475
その他	71	198
営業外費用合計	568	674
経常利益	11,948	12,680
特別損失		
減損損失	195	330
特別損失合計	195	330
税金等調整前四半期純利益	11,752	12,350
法人税、住民税及び事業税	3,818	4,259
法人税等調整額	1,209	663
法人税等合計	5,027	4,922
少数株主損益調整前四半期純利益	6,724	7,427
四半期純利益	6,724	7,427



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,724	7,427
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	6
その他の包括利益合計	△0	6
四半期包括利益	6,724	7,434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,724	7,434

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	11,752	12,350
減価償却費	2,253	2,301
減損損失	195	330
賞与引当金の増減額(△は減少)	△712	601
有価証券評価損益(△は益)	△848	△665
売上債権の増減額(△は増加)	△1,136	△1,765
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,713	△582
仕入債務の増減額(△は減少)	4,778	5,823
その他	△896	131
小計	13,671	18,526
利息及び配当金の受取額	60	75
利息の支払額	△3	△5
法人税等の支払額	△4,341	△3,695
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,387	14,901
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△14,500	△24,000
定期預金の払戻による収入	13,500	22,000
有価証券の取得による支出	△14,000	△16,500
有価証券の償還による収入	10,000	11,000
有形固定資産の取得による支出	△4,156	△3,057
無形固定資産の取得による支出	△90	△411
差入保証金の差入による支出	△370	△695
その他	△312	164
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,929	△11,500
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,138	△949
その他	△100	△30
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,238	△979
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,780	2,421
現金及び現金同等物の期首残高	28,556	26,627
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,775	29,048

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## (6) セグメント情報等

(セグメント情報)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	135,210	38,270	173,481	—	173,481
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	—	1	△1	—
計	135,212	38,270	173,482	△1	173,481
セグメント利益	8,822	1,911	10,734	△633	10,101

(注) 1. セグメント利益の調整額△633百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、賃貸資産及び遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 195百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「ファーマシー事業」で 127百万円、「ドラッグ事業」で 67百万円となっております。また、報告セグメントに帰属しない賃貸資産において 0百万円計上しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファーマシー 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	145,593	38,839	184,432	—	184,432
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	145,593	38,839	184,432	—	184,432
セグメント利益	10,499	1,604	12,103	△551	11,552

(注) 1. セグメント利益の調整額△551百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、賃貸資産及び遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。

営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額 330百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「ファーマシー事業」で 84百万円、「ドラッグ事業」で 245百万円となっております。また、報告セグメントに帰属しない賃貸資産において 0百万円計上しております。